

2009年4月20日
mail ニュース

No.31・通巻222号

自治労連 都庁職

自治労連都庁職員
労働組合
発行人 米山隆史
TEL 03-5381-0250

革新都政をつくる会 団体・地域代表者会議開かれる

革新都政をつくる会の団体地域代表者会議が4月18日、東京労働会館のラパス・ホールで開催されました。東京民医連の千坂さんと東京自治労連の荻原さんの司会で、代表委員である東商連の西村さんが開会挨拶を行いました。

20分という短い時間でしたが、日本共産党都議団の松村さんが2月18日から3月27日まで開催された都議会第1回定例会の報告を行いました。

続いて、東京自治問題研究所常務理事で都留文科大学講師の安達さんが「世界都市問題と東京」と題して、講演を行いました。安達さんは世界と東京の都市問題についてつまびらかにし、新自由主義の世界都市から平和・平等・寛容の福祉都市へ転換しようと話を結びました。

また、ゲストスピーチとして、「9条の会東京連絡会」の高岡さんがお話をされました。

基調報告は事務局長の相楽さんが行いました。実はこの会の前段に臨時総会が開催され、会の体制について都教組出身の代表世話人の中山さんが退任し、同じく児玉さんが後任となる事を決定しました。そして中山さんが革新都政の会の事務局長となり、相楽さんは退任されることとなりましたので、今回の基調報告が最後の仕事となりました。

都政を巡る情勢については、丸10年を経過した石原都政は相次ぐ失政の中、オリンピック招致になりふりかまわず執着しているが、世論は盛り上がっていない。一方、今回の都議会に提案された3小児病院廃止についての闘いで顕著となったように、福祉や教育・医療の切捨てなど、石原「構造改革に対して都民世論と運動が広がっている。こうした中で、迎える都議会議員選挙は都政転換の大きなチャンスである。革新都政の会は、一致する目標や政策で広範な団体、個人、政党、学者・研究者などと共同して、都議選後から本格的に基本政策作りに着手する。また、各運動団体の要求や到達点などをまとめる。直面する都政問題についての見解を発表するとともに、会のホームページの充実などに努めていく。組織委員会を立ち上げ、職場や地域での「会」の確立を進めていく、などの提起を行いました。

続いて各分野からの発言を求め、9人が発言しました。発言したのは、年金者組合、東京母親大会連絡会、東京・生活と健康を守る会、東京民医連、東京都不当解雇反対同盟、東京地評、自治労連東水労、東京自治労連、そして病院支部でした。

東京自治労連からは森田自治労連都庁職委員長が発言し、作成したパンフレット「2009東京予算分析」と現在作成中のリーフ「ここが問題！石原都政」の取り組みについて報告しました。

自治労連東水労の石川委員長は、機関紙「都民がつくる革新都政」4.5月号に連載の「年々増大する東京都水道局の黒字」について発言し、料金を下げて都民に還元するよう、訴えました。

病院支部の柳支部長は、都立三小児病院廃止反対の闘いについて報告するとともに、運動を支えた実行委員会は5月16日に総決起集会を開催し、今後の運動に結び付けたいと決意を語りました。

相楽事務局長が討論のまとめを行った後、代表世話人の中山さんが閉会挨拶を行い、会議は終了しました。